



(縦165mm×横30mm)

「銀札會所」に改め、傍に「松坂為替組」又は「松坂三井組」の添印を押捺することになった。松坂札は三井のほか、伊勢の豪商が引受人で、兌換が保証され、濫発されることもなかった。紀州本藩札にくらべ価値が高かった。明治四年（一八七一）の調査で、本藩札に比し松坂札の価格が五倍余であったことは、本誌掲載の拙稿においても指摘したところである（山口）。



(縦164mm×横33mm)

口絵 和歌山藩伊勢松坂札

和歌山藩が伊勢国松坂領内で藩札を発行したのは、文政五年（一八二二）のことであつた。銀札で、種類は一匁・五分・三分・二分の四種。発行引受人は松坂の御爲替組、翌六年から三井組も加わつた。御爲替組は長谷川次郎兵衛・長井嘉左衛門・小津清左衛門・坂田五郎兵衛・殿村佐五郎の五名、いずれも伊勢の豪商であつた。三井組は総本家の三井八郎右衛門のほか、松坂在住の三井宗十郎及び三井則右衛門によつて構成されていた。その後松坂札の流通高が増大し、他国にまで及んだこともあつて、天保二年（一八三一）から発行元の名義を